

鎌倉・江ノ島はそれぞれの観光地としての魅力だけでなく、それらを結ぶ江ノ電沿線の風景にも魅力があると感じた。今回、鶴岡八幡宮や長谷寺などの歴史的な名所も訪れたが、私にとって特に印象に残ったのは、鎌倉から江ノ島へ向かう道のりそのものだった。

私たちは、七里ヶ浜駅まで江ノ電で行き、そこからは江ノ電に沿って歩きながら江ノ島へ向かった。鎌倉から長谷あたりまでは人も多く、観光地として想像する通りの鎌倉らしい雰囲気であった。七里ヶ浜では、海が眼前に広がりそれまでとは雰囲気が一転し、海沿いのいわゆる湘南エリアという雰囲気を感じた。そして江ノ島は、鎌倉とは異なる活気と賑わいに包まれており、七里ヶ浜あたりとも違った雰囲気の、少し海外っぽさもある印象であった。同じ海沿いの地域でありながら、それぞれの場所が異なる表情を持っていることが面白かった。

もし江ノ電がなければ、この区間は単なる移動のための経路として通り過ぎていたかもしれない。しかし江ノ電は鎌倉と江ノ島を結ぶ交通手段であるだけでなく、沿線の風景に目を向けるきっかけにもなっているように思う。実際に歩いてみたことで、一つ一つの場所の違いや魅力をより身近に感じる事ができた。

今回歩いた道のりを振り返ると、鎌倉から江ノ島までの風景そのものが魅力だったように思う。歴史ある街並みから海辺の開放感、そして江ノ島の賑わいへと続く変化は地図や写真だけでは分からないものだった。江ノ電沿線の駅名を題材にした『サーフ ブンガク カマクラ』という作品があるが、沿線を実際に歩いたことで、そのような作品が生まれた理由を少しだけ感じ取れたような気がする。